

**令和5年度第3回  
函館市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する協議会**

日 時	令和5年11月15日（水） 18:30～20:15
場 所	函館市役所 5階 教育委員室
出 席 （委員）	佐竹委員（会長），田上委員（副会長），長瀬委員， 小澤委員，渡辺委員，塚田委員，菊池委員，五十嵐委員， 高橋委員，佐藤委員，古御堂委員，駒野委員（12名）
（アドバイザー）	深見渡島教育局教育支援課長
（事務局）	小笠原学校教育部長，金野教育政策推進室長， 櫛田教育政策課長，鈴木主査（4名）
※先進地調査 結果報告	生涯学習部生涯学習文化課小川主査， スポーツ振興課池上主査，鈴木主査
傍聴者	1名

## 1 開会

（会長）

ただ今から，令和5年度第3回函館市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する協議会を開会する。

本協議会は，函館市情報公開条例の規定に基づき，原則，公開して行うこととしており，本日の議事等については，非公開とする内容がないと考えられることから，本日の協議会は全て公開となるがよろしいか。

<「異議なし」の声>

なお，今後開催する会議の内容によって，公開することが適当でないと認められるときは，非公開とする場合もある。

次に，会議録について，協議会終了後に発言要旨を取りまとめた会議録を作成し，事前に，出席委員に確認のうえ公表するので，御承知願いたい。公開の際は，発言者の氏名は伏せて公開するので，各委員は積極的にご発言いただきたい。

また，会議の公開と合わせ報道機関によるカメラおよび写真撮影を認めたいがよろしいか。

<「異議なし」の声>

本日の出欠の状況だが，協議会委員13人中，12人の委員の出席となっており，設置要綱第7条第3項の規定により，半数以上の出席により会議が成立していることをお知らせする。

それでは次第に従い協議会を進めるが，本日の議事は，先進地調査の結果報告についてである。事務局から説明をお願いする。

## 2 議事 先進地調査の結果報告について

(事務局)

それでは、先進地調査の結果報告について説明させていただきます。

**<配付資料1「先進地調査の結果報告」に基づき、静岡県内5市（掛川市、焼津市、富士市、沼津市、静岡市の状況について説明>**

(会長)

事務局から、先進地調査の結果報告があったが、委員の皆様から、ただいまの説明について御質問、本市に関係して御意見などがあれば、発言をお願いする。

(A委員)

エリアの区分けについて、人口と面積で自治体により大きく異なってくる。掛川市は移動しやすいコンパクトな例だが、静岡市はどのようにエリア分けをしているのか。

(事務局)

掛川市はニーズ調査の結果を基にしてエリアを設定している。従って競技毎でエリア数も異なっている。静岡市は、原則、近隣校で生徒が自力で移動できる範囲としているが、各学校の規模や学校部活動の加入者数も参考にしながら、15エリアに区分している。

(B委員)

指導者の確保は大きな課題と捉えている。静岡市の取り組みで、学校部活動において、15エリアでの拠点校方式を進めているが、その場合の拠点校への顧問の配置について、教員の専門性を考慮した人事が行われているのか。また、学校部活動を地域移行した場合の指導員の確保はどのように行うのか。

(事務局)

拠点校の顧問に係る人事配置については、確認していない。指導員の確保についてだが、静岡市は、令和5、6年度の国の実証事業で民間事業者に地域クラブ活動事業を委託しており、指導者確保も含まれる。その後、全市的に展開する場合も、静岡市では相当の費用を見込んでいるが、確保すべき指導者は相当な数になると考えられる。

(会長)

指導者の確保は大変なところ。予算も関わってくる。

(C委員)

焼津海洋クラブについて関心を持った。函館は水域のスポーツにとってとても良い環境があり、以前は多くの高校にボート部があった。今は1校しかないが、自分たちの団体と連携して水のスポーツの普及を図ってきた。中学校とも協力してジュニアのボートクラブを作ることも考えている。

(D委員)

今の報告では、障がい者スポーツには触れられなかったが、事務局としてはどのように考えているか。

(事務局)

市のスポーツ推進計画には、障がい者も高齢者も全ての方が運動・スポーツを楽しめる環境づくりについて触れており、例えば、地域クラブ活動の中にパラスポーツを設けることで、障がいのある子どももそうではない子どもも一緒に活動することも考えられる。また、運動に興味がない子どもも、プログラミングやeスポーツといったクラブがあることで、多様なニーズに対応できる。

(会長)

大事な視点である。ニーズを捉えてどのような環境を整備するのか考えていかなければならない。

(E委員)

どの地域も、自治体を中心として、この先の見通しをもったスケジュールを立てて進めているのが良いと思うが函館はどうなるのか。

(事務局)

本日の報告で他地域の状況をお伝えしたが、12月に実施予定のアンケート調査でニーズを把握するので、その結果もこの協議会でお伝えしたい。令和6年度内に推進計画の策定をするが、この先進地調査やアンケート調査の結果が基盤になると考えているほか、多種多様な課題の解決を図る必要があり、現時点では、いつということとは言えない。

(F委員)

現在学校の部活動においては、受益者負担のような形で会費を集めているのか。掛川市の地域移行の実施体制案のような金額なのか。

(事務局)

それぞれの部活動によるが、必要経費として集めている部活動はあるが多額ではない。

(E委員)

中学校によっては、道具の購入やTシャツを揃えるといった目的で月に1,000円、2,000円といったレベルで集めている。

(事務局)

受益者負担の考え方で、地域クラブの指導員の謝礼金を会費に反映すると、掛川市のレベルになり、そこを静岡市は、現在の学校部活動の地域移行に関しては、民間に委託して市が費用を出すということ。

(F委員)

少子化を踏まえると負担は大きくなっていくことが予想され、函館市がどう考えるのかと思ったところである。

ほかにも指導者の確保については、自分の団体の状況からすると、指導者は本業があり、金額の問題以外にも、民間はともかく公務員の兼職兼業が進まないといけない。

(D委員)

これからの問題だが、費用負担の話は明確にする必要がある。

(事務局)

改革推進期間において地域移行に取り組むための国の実証事業を除けば、継続的な地域クラブ活動の運営に係る国の補助は示されておらず、多くの自治体では受益者負担の考え方で進めている。一方で国からは、保護者負担が過大にならないようにすることも示されており、その点を市が経常的に負担していくのかを含め、今後協議していく必要がある。

(会長)

ほかに御意見ないか。なければ、次にアドバイザーである深見課長からお話をいただきたい。

(深見課長)

【本日の報告について】

学校教育部と生涯学習部が、一緒に調査に参加した点は良かった。生涯学習、生涯スポーツは大事な視点であり、調査した自治体は、いずれも全ての人がスポーツ・文化芸術に生涯にわたって楽しんでいけることを掲げており、函館市の目標とも共通すると考えられる。

スポーツ部門などが市長部局にある自治体でも、連携をしっかりと取り組んでいると感じた。

また、現在の部活動にない種目を開設しているのは、単なる学校部活動の地域移行ではなく、地域の文化・スポーツの振興を考えている点で興味深かった。

中体連のない種目の関係者からみると、競技人口を増やすチャンスという側面もあると感じた。

取り組めるところから進めていることも、調査した自治体に共通するところ。

【管内の他市町の取り組みについて】

渡島の西部4町（木古内、知内、福島、松前）が合同で地域移行を進めている。経産省の事業（未来の教室）を活用して、民間事業者を4町のコーディネーターとして取り組みを進めている。

北斗市では、9月に北海道総合型地域スポーツクラブ連絡協議会主催の情報交換会議を行った。テーマは「みんなで考えよう部活動の地域移行」で、市教委ではなく、団体側が地域の環境を整えようと自主的に動いている点が良かった。

## 【その他】

先進地の事例はほかにも色々耳に入るが、団体の側から話があり、市教委が行政的な仕組みづくりに動くケースが多いと感じる。本日の協議会も、皆様が関係者としてではなく、当事者の目線で発言されていることが素晴らしいと感じた。今後の市教委の取り組みにも、積極的な働き掛けや協力が大事になってくる。

質疑で費用負担の話も出ていたが、函館市の規模の自治体の場合、制度を決めてからのスタートではなく、試行実施が必要になると思われ、市教委が取り組む場合には関係の皆様の協力が重要であると思う。

地域移行の見通しについても質疑があったが、行政としては、ある程度確定したものがないと言い辛い部分もあり、理解をいただきながら進めることになる。

国の事業については、改革推進期間の中では補助が出るが、その先はそれぞれの市町での取り組みになると思われるので、まずは補助金がない前提での制度設計が現実的と考える。

## 3 その他

(会長)

深見課長ありがとうございました。その他として、委員の皆様から何かあるか。なければ、事務局から何かあるか。

(事務局)

本日はお忙しいところ、御出席を賜り、誠にありがとうございました。最後に、その他として、2点、連絡がある。

1点目は、先程申し上げたが、12月に部活動のアンケート調査を実施する。対象は、児童生徒や保護者、教職員、部活動地域支援者、関係団体。次回の協議会でアンケート結果を報告させていただく。

2点目は、学校が主体となる地域連携の合同部活動について、現在、中学校校長会と連携し、検討・準備を進めており、具体的な内容が決まったら御報告させていただく。

今後開催する協議会の開催日程については、改めて調整したうえで御案内させていただきます。

## 4 閉会

(会長)

第3回の会議はここまでとする。以上をもって、令和5年度第3回函館市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する協議会を終了する。

本日はありがとうございました。